

世界にひとつだけのまちづくり

マイクラフト みんなでつくる駅まちデザイン

市は、平成31年4月1日に景観づくりのため具体的な施策を実施できる景観行政団体になりました。以来、魅力ある建物や景観を顕彰・紹介する「あんなか景観まちづくり賞」の制定や、ハイキングなどの市民参加イベントを開催してきました。

今年度は、子どもたちに景観について関心をもってもらうため、人気ゲーム「マイクラフト」を使い、仮想の駅を中心としたまちづくりを体験するワークショップを開催しました。



みんなで考え つくる

ワークショップは12月8日、県庁の交流スペース「ギンガム」で行われました。市内の小中学生19人が各グループに分かれ、仮想世界の駅を舞台に、どんな施設があったら楽しいか、それぞれアイデアを出し合いながら「世界に一つだけのまちづくり」を目指しました。

講師は、「マイクラフト」を活用した教育に取り組んでいる共愛学園前橋国際大学の村山賢哉教授がつとめ、県の人材育成事業「群馬デジタルイノベーションチャレンジ」に参加している前橋・高崎・桐生高校の生徒がメンター(助言・指導者)として手伝いました。今回はその様子をお伝えします。



「マイクラフト」ってなに？

「マイクラフト」は、立方体のブロックで構成された仮想世界でものづくりや冒険を楽しめるゲームです。子どもから大人まで世界中広く親しまれています。今回のワークショップで使用した教育版では、ゲーム内の世界に教師と児童生徒が一緒に入り、役割分担しながらプログラミング学習やもののづくり体験をすることができ、子どもたちの創造力や探求心をはぐくむ効果が期待されているとして近年、全国の小学校などで導入が進められています。